

- 6) お産をした病院・医院・助産院での育児相談
- 7) 産後、必要な時に何回でも相談に応じてもらえる家庭訪問
- 8) じっくり相談にのってもらえる乳児健診
- 9) 保育所、幼稚園、児童館での育児相談

#### 育児サポート

- 10) 産後の赤ちゃんや母親の世話をする産褥ヘルパー
- 11) 家事を手伝ってくれるヘルパーを派遣する制度
- 12) 必要に応じて乳房マッサージもやってくれる家庭訪問

#### 保育所

- 13) 働いていなくても利用できる赤ちゃんの一時預かり保育
- 14) 乳児保育、延長保育、病児保育などの保育サービス
- 15) 駅の近くの保育所
- 16) 職場内の保育所

#### 育児休業、労働時間など

- 17) 育児休業を気がねなくとれる代替りの人の配置
- 18) 育児休業中のある程度の給料の保証
- 19) 育児休業後、もとの職場や希望する部署への配置
- 20) 育児休業後の研修や職場情報の提供
- 21) 夫婦でともに育児できるような父親の育児休業
- 22) 育児中の親にあわせた働き方（短時間勤務、在宅勤務など）
- 23) 職場に近い社宅や公営住宅への子育て世代の優先的入居制度

#### 行政サービス

- 24) こどものいる家庭の優遇税制、保育料の軽減などの経済的支援
- 25) 親の就労時間を考えた乳幼児健診の時間・方法
- 26) 公費負担の予防接種を受ける場所・時間を柔軟にすること

4 3. 退院後の1ヶ月間、育児に困った時、相談にのってもらった人を1人あげるとしたら、誰ですか。

- 1) 医師
- 2) 助産師
- 3) 看護師
- 4) 保健師
- 5) 看護師・助産師・保健師の区別はつかないが、看護・助産に携わる人
- 6) 夫・パートナー
- 7) 親（実父母・義父母）
- 8) 姉妹
- 9) 友人・知人
- 10) 相談したくても誰もいなかった
- 11) 特に困ったことがなかった。
- 12) その他（                                      ）

- 4 4. 退院後の1ヶ月間、医療者（医師、助産師、看護師、保健師）に相談して、あなたの悩みや育児の心配事は解決しましたか。
- 1) はい
  - 2) いいえ
  - 3) 返って心配になった
  - 4) わからない
  - 5) 相談しなかった
- 4 5. その結果（相談した結果）について、満足しましたか。
- 1) はい
  - 2) いいえ
  - 3) どちらともいえない
- 4 6. 今回の妊娠からお産までに受けた医療サービスは、全体的にみて満足できましたか。
- 1) 満足できた
  - 2) 満足できなかった
  - 3) どちらともいえない

## **Ⅶ これからの育児のことについておたずねします**

4 7. 産後2ヶ月、産後3ヶ月の間、どのようなサービスがあれば楽しく育児ができますか。次の1)～16)までのうち、あなたにとって重要なものに○をつけて下さい。（複数回答可）

### **情報提供**

- 1) 夜もみてくれる小児科医のリスト
- 2) ベビーシッターを紹介してくれる所
- 3) 地域の児童委員、民生委員
- 4) 出産した病院からの育児などの情報提供や働きかけ  
(例えば、赤ちゃんとの生活や、上の子どもの対応に関する助言など)

### **育児相談**

- 5) 24時間電話できる育児相談
- 6) 母乳育児の相談と乳房手当を兼ねた母乳外来
- 7) 自由に参加できる病院・医院・助産院での育児相談

### **育児サポート**

- 8) お産をした病院・医院・助産院からの電話訪問
- 9) 産後1ヶ月後も、必要な時に何回でも相談に応じてもらえる家庭訪問
- 10) 自由に参加できる病院・医院・助産院での育児サークル
- 11) 父親どうしの交流ができる場
- 12) インターネットによる育児相談

### **保育所**

- 13) 働いていなくても利用できる赤ちゃんの一時預かり保育
- 14) 産休または育児休暇明けの母親の乳児優先の入園制度

### **育児休業、労働時間など**

- 15) 夫婦で育児できるような父親の育児休業
- 16) 夫が育児参加できるような父親の働き方（短時間勤務、在宅勤務など）

ご協力ありがとうございました。

平成17年 9月28日

研究協力施設  
ご担当様 各位

様

## 出産施設調査への協力の御依頼

この度は、出産施設への調査にご協力を頂き、誠にありがとうございます。

本来ならばご説明に伺うべき所、書面のお願いにて失礼致します。

『健やか親子21』の課題の1つ「快適で安全な妊娠出産」の取り組みが始まってから5年が経過しました。この度、厚生労働省科学研究費補助金により「科学的根拠に基づく快適な妊娠・出産のためのガイドラインの開発に関する研究」班（主任研究者 島田三恵子、分担研究者 杉本充弘、大橋一友、縣俊彦）が、出産されたお母様方が望む満足な妊娠出産や育児ができるような保健医療サービスを提供するために、必要とされる母子保健医療体制について全国調査を行い、実現可能で快適な妊娠出産ケアのガイドラインを検討することになりました。

そこで、ご多忙の折お手数をおかけし誠に恐縮ですが、周産期の管理者の方（産科医の責任者の方；産科部長様、施設によっては院長・副院長様、および助産ケアの責任者の方；産科の助産・看護師長様）にご記入頂き、同封の封筒に入れて、ご返送下さいますようご協力をお願い申し上げます。

この調査は全て統計処理し、ご協力頂く方々の個人名、個人情報および施設名などは特定されませんし、一切外部に公表されることはございません。また、施設内の資料、研究報告書および学会発表に使用する他は、回答内容が目的以外に使用されないことをお約束致します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

アンケートに関するご質問・ご意見がありましたら下記までお寄せ下さい。

送付先および連絡先 主任研究者 島田三恵子宛

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-7 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻

Tel/Fax 06-6879-2532、 E-mail: shimadam@sahs.med.osaka-u.ac.jp

## 「快適で安全な妊娠出産」を提供するための産科医療体制に関する調査

産科医の減少により出産施設の閉鎖が続き、医療者にとっても快適な出産医療体制の整備が急務となっています。そこで、快適で安全な妊娠出産医療・ケアを提供する受け皿として、活性化すべき現存システムや補充すべき体制などについてお尋ねします。

産科医の責任者の欄は産科の部長様（施設によっては院長様、副院長様）、助産ケアの責任者の欄は産科の師長様（助産師長様または看護師長様）にお答え頂きますようお願い致します。

回答は、当てはまる番号に○を1つ付けて下さい。（ ）には数字をお書き下さい。

### I 貴院についてお尋ねします。

1、貴施設は以下のどの施設に該当しますか？

- 1) 大学病院
- 2) 一般病院（総合病院）
- 3) 一般病院（産科の単科病院）
- 4) 診療所
- 5) 助産所

2、産科単科（分娩室、新生児室、褥室含む）の病棟がありますか？

- 1) はい      2) いいえ（婦人科、小児科、内科など他科との混合病棟）

3、産科として決めているベッド数は何床ですか？      (                      ) 床

4、NICUが設置されていますか？

- 1) はい      2) いいえ

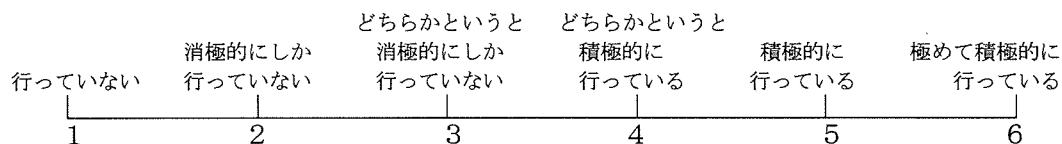
5、MFICUが設置されていますか？

- 1) はい      2) いいえ

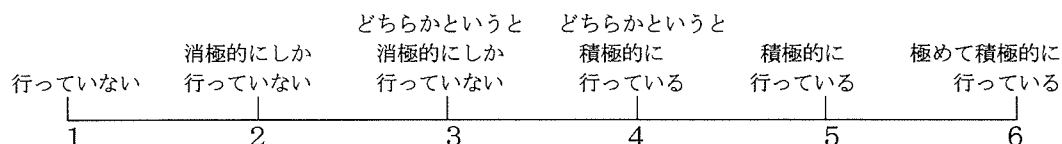
6、貴院のホームページから産科にアクセスできるホームページがありますか？

- 1) はい      2) いいえ

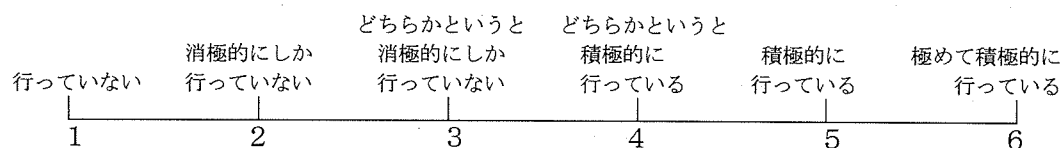
7、分娩数や産科手術数を公表していますか？



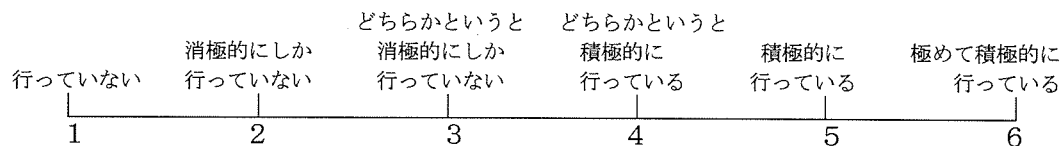
8、昨年の相談件数（電話、母乳、育児、受診、家族計画など）のデータの作成について



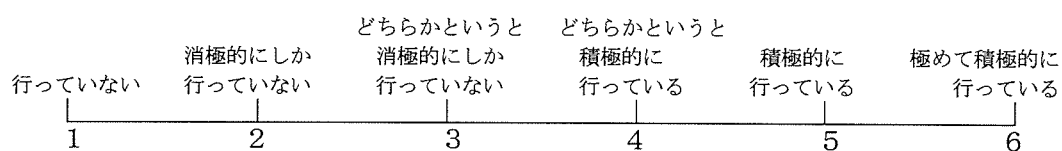
9、一般の妊婦健康診査と分娩費用が公表されていますか？



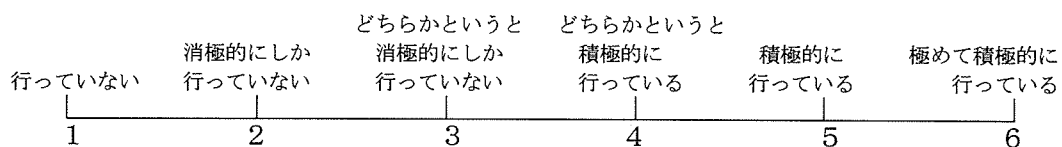
10、妊産褥婦が診療等にかかった費用の請求書の明細を見ることができますか？



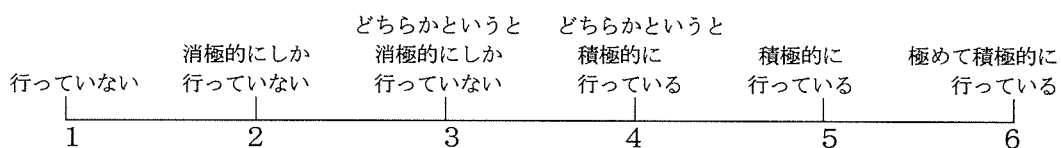
11、カルテの開示を希望者に行っていますか？



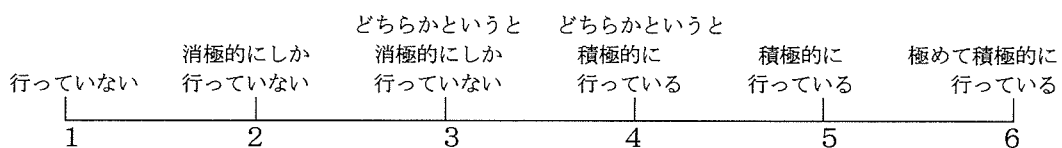
12、電子カルテを導入していますか？



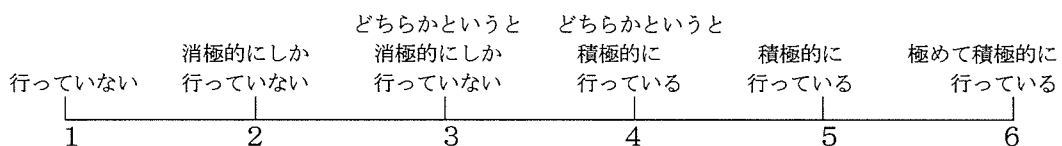
13、クリニカルパスを導入していますか？



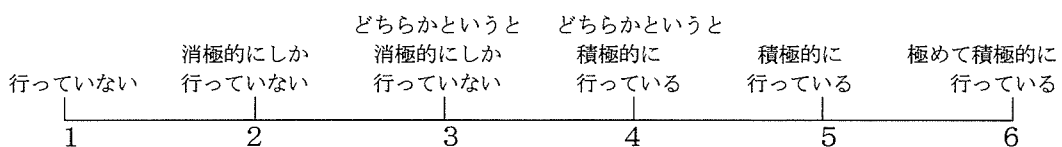
14、医学生、助産学生、看護学生の実習対象になる時、妊産褥婦に同意を得ていますか？



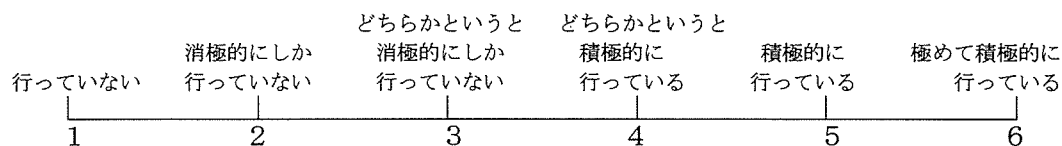
15、市民グループや親同士の相互支援活動を紹介していますか？



16、産科の満足度調査を行っていますか？



17、患者・家族等からの苦情、相談に応じる窓口について



## II 貴院のマンパワーについてお尋ねします。

18、貴院の平成16年の分娩件数（妊娠22週以降）は年間何件ですか？（ ）件

19、貴院の平成16年の帝王切開術は年間何件ですか？（ ）件

20、貴院の平成16年の流産手術（妊娠22週未満）は年間何件ですか？（ ）件

21、貴院の産科外来の受診者数は月間何名ですか？（ ）名

22、周産期部門（NICUを除く病棟と外来）におけるマンパワーの実数についてお尋ねします。

産科医（産婦人科医） 常勤（ ）名、非常勤（ ）名  
研修医（ ）名

助産師 常勤（ ）名、非常勤（ ）名

看護師 常勤（ ）名、非常勤（ ）名

看護助手 常勤（ ）名、非常勤（ ）名

23、夜間・休日、アルバイトの医師を雇用していますか？

1) はい 2) いいえ

24、夜間・休日、アルバイトの助産師を雇用していますか？

1) はい 2) いいえ

25、周産期部門（NICUを除く病棟と外来）のマンパワーが、貴院ではあと何名位必要と考えられますか？ 充足されている場合は0名とお書き下さい。

産科医（産婦人科医） 常勤（ ）名、非常勤（ ）名

助産師 常勤（ ）名、非常勤（ ）名

看護師 常勤（ ）名、非常勤（ ）名

その他 常勤（ ）名、非常勤（ ）名

## III 産科医の責任者の方に診療体制等について尋ねします。

※施設名は特定されませんので、改善のために実際の現状を正しくお書き下さい。

26、産科医（産婦人科医）1人当たりの実際の労働時間は、平均すると週何時間ですか？

週当たり平均（ ）時間

27、平成16年は、産科医（産婦人科医）1人当たり平均して年間何日の休暇を実際に取りましたか？

週休（ ）日+祝祭日（ ）日+年休等（ ）日=年間（ ）日



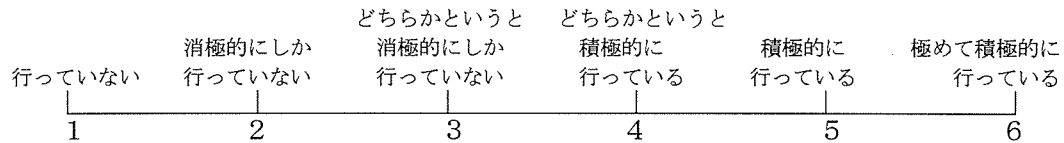
38、時間外の受診や出産を速やかに受け入れる体制がありますか？

- 1) はい                      2) いいえ

39、妊産婦健診と不妊治療外来とを、場所または時間で区別していますか？

- 1) はい                      2) いいえ                      3) 不妊治療外来はない

40、カルテが一般の人にも理解できる書式の工夫をしていますか？



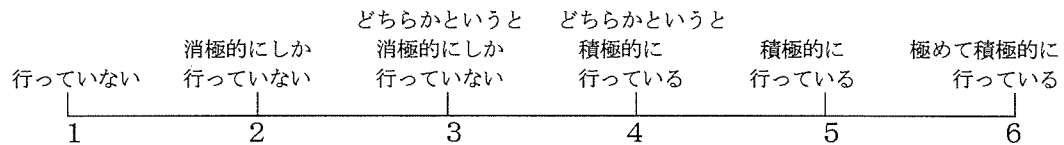
41、分娩時の会陰切開をルーティンに行っていますか？

- 1) はい                      2) いいえ

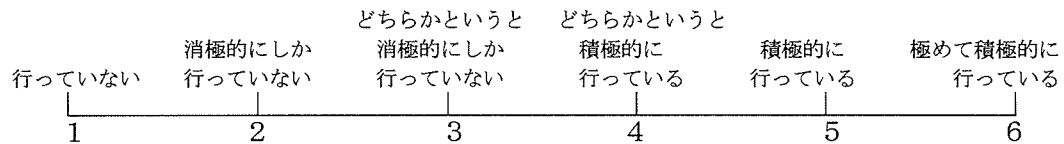
42、産後の投薬をルーティンに行っていますか？

- 1) はい                      2) いいえ

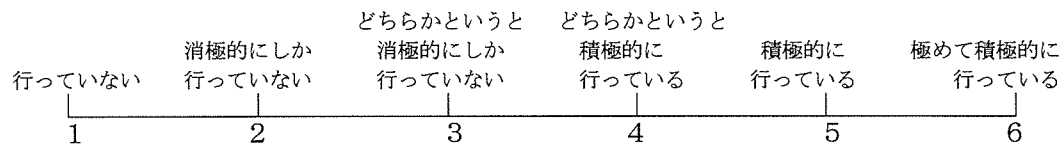
43、無痛分娩を行っていますか？



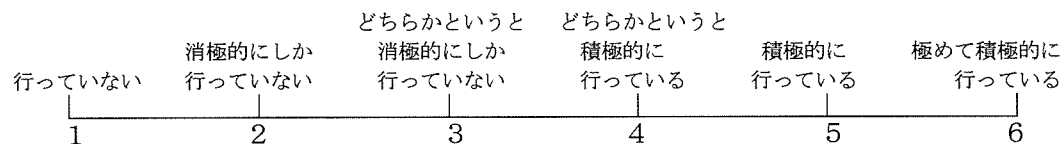
44、バースプランを尊重するシステムがありますか？



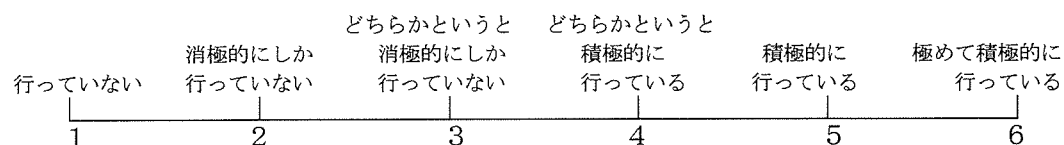
45、産科医と助産師の臨床カンファレンスがありますか？



46、地域の病産院との連携がありますか？

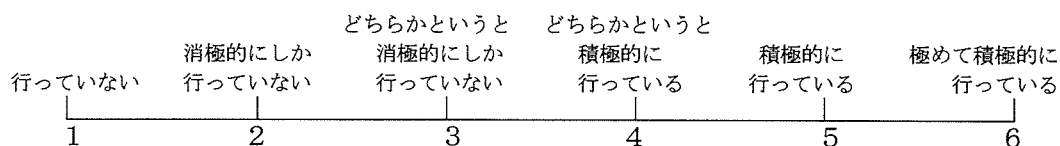


47、地域の助産所との連携がありますか？



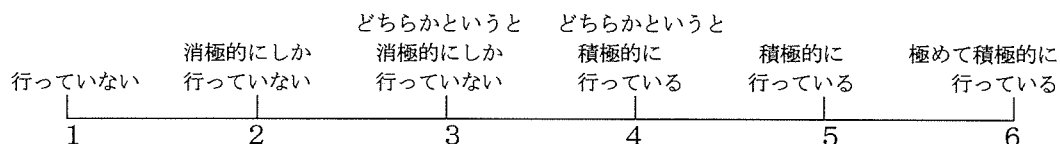


48、日頃から連携機関の関係者と事例検討する機会がありますか？



49、貴院は出産施設のオープンシステム、またはセミオープンシステムに参加していますか？

※ ここでは、オープンシステムとは妊婦健診をクリニック等で実施していた医師または助産師が産婦に付いて行ってセンター化病院で分娩を取り扱うシステム、セミオープンシステムとは妊婦健診をクリニック等で実施し、分娩はセンター化病院に全てお任せし、産後はクリニック等に戻るシステムのことを言います。



#### IV 助産ケアの責任者の方に妊娠出産育児ケア等について尋ねします。

50、正常分娩を、基本的にはどなたが取り上げていますか？

- 1) 産科医
- 2) 助産師（正常産は助産師が独立して行う、医師が立ち会わず助産師に任せる）
- 3) 産科医が立ち会って、助産師が取り上げる
- 4) その他（ ）

51、分娩介助をする業務に携わっている助産師は何名いますか？

（ ）名

52、分娩介助をする業務に携わっている助産師は1人当たり平均して年間何件の経膈分娩を取り扱っていますか？ 平均 年間（ ）件

53、助産師1人あたりの実際の労働時間（超過勤務時間を含む）は平均して週何時間ですか？ 週当たり平均（ ）時間

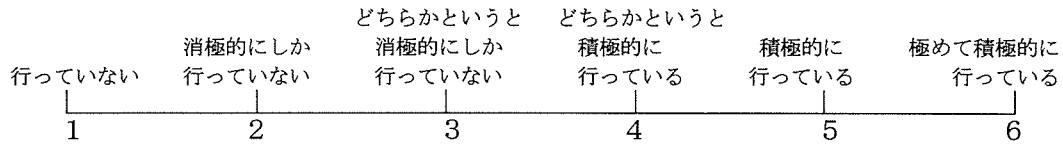
54、平成16年は、助産師1人当たり平均して年間何日の休暇を実際に取りましたか？

週休（ ）日+祝祭日（ ）日+年休等（ ）日 = 年間（ ）日

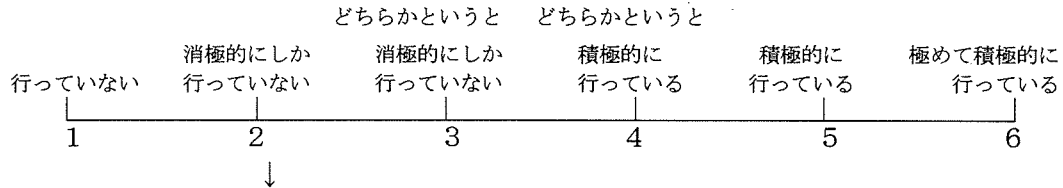
55、助産師の勤務形態は、以下のどの形態ですか？

- 1) 三交代
- 2) 二交代
- 3) 当直制
- 4) on call（呼び出し制）
- 5) 上記1)～4)の組み合わせ
- 6) その他（ ）

56、妊娠中から産褥期まで「受け持ち制」で助産ケアを行っていますか？



57、貴院では助産師外来（妊婦・褥婦の診察とケア）を開設していますか？



上記で「1」以外を選んだ方に応えた方にお尋ねします。

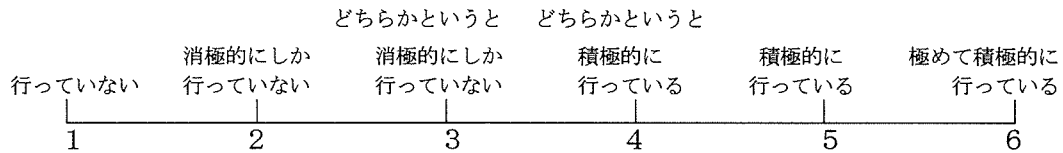
57-2 助産師外来を希望して受診する妊婦は平均して年間何名ですか？

年間（                      ）名

58、産科外来におむつ替え台や授乳場所がありますか？

1) はい                      2) いいえ

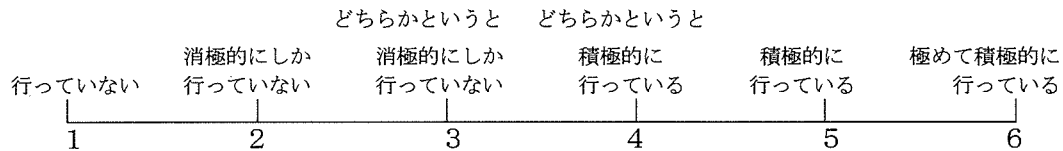
59、バースプランの作成の支援について



60、分娩室は個室ですか？

1) はい                      2) いいえ

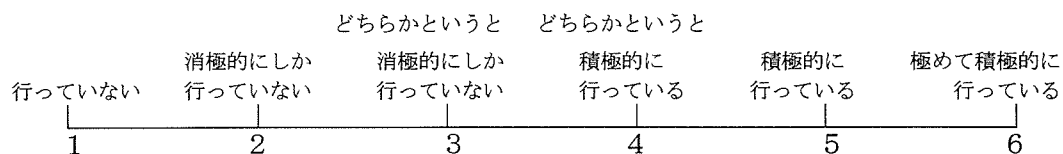
61、出産する部屋の落ち着いた環境（調光、音、人の出入り等）の工夫について



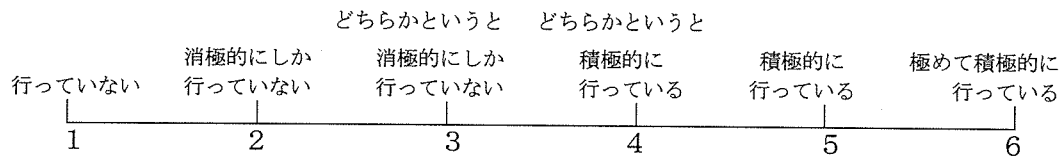
62、陣痛室と同じ個室で分娩できますか（例えば、LDRなど）

1) はい                      2) いいえ

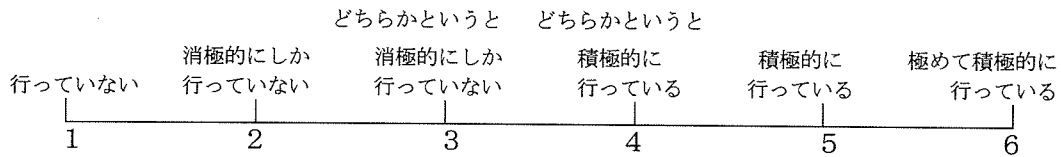
63、分娩台以外の場でも出産すること（フリースタイル出産）について



6 4、産婦が使える浴室（シャワー、湯舟など）について



6 5、お産に家族の立ち会いや付き添いについて



6 6、分娩時の剃毛をルーティンに行っていますか？

- 1) はい                      2) いいえ

6 7、分娩時の浣腸をルーティンに行っていますか？

- 1) はい                      2) いいえ

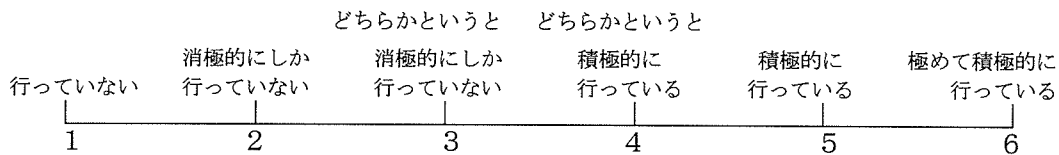
6 8、分娩時の導尿をルーティンに行っていますか？

- 1) はい                      2) いいえ

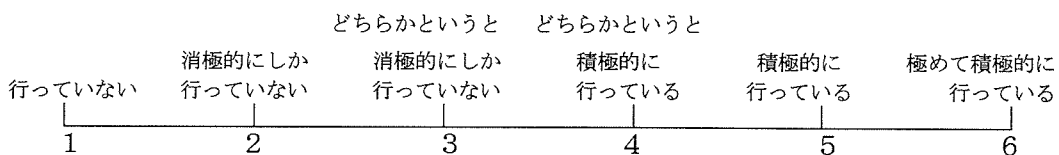
6 9、貴院の産科における医療体制として、母児同室ですか？

- 1) 出生直後からずっと同室
- 2) 出産当日から（分娩直後は一時異室）
- 3) 産後1日目から同室
- 4) 産後2日目以降同室
- 5) 昼は同室、夜間は異室
- 6) 母親の希望により、同室
- 7) 基本的に母児異室

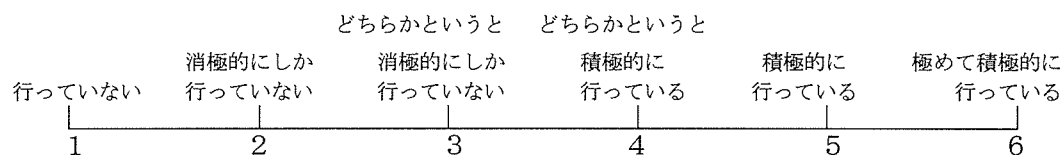
7 0、入院中に褥婦と共にお産の振り返りをするシステムについて



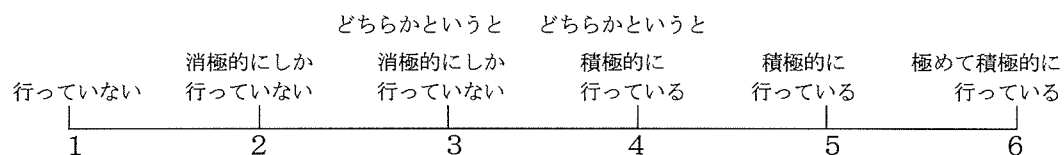
7 1、褥婦の希望に応じて、上の子どもや家族と自由に面会できますか？



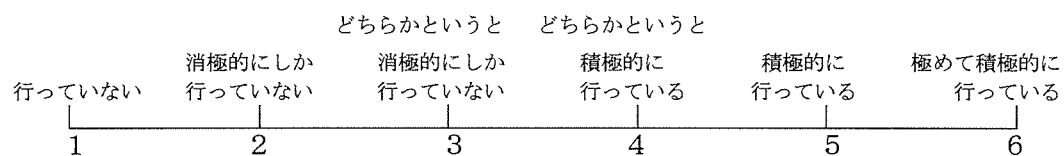
7 2、退院後の育児を自立してできることを目標に、入院中からケアを行っていますか？



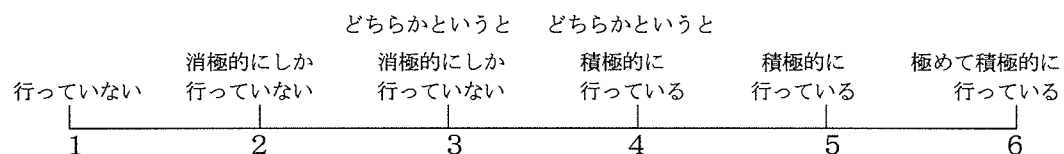
7 3、入院中の産後食が退院後の食事の見本（食育教育）になるような工夫について



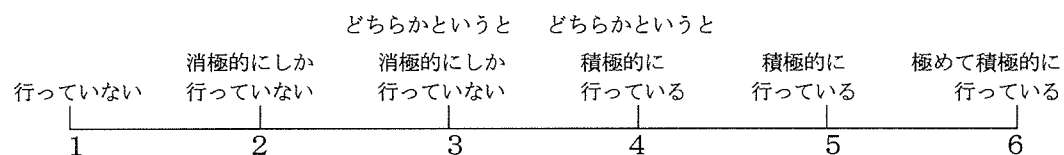
7 4、24時間電話相談を受ける体制について



7 5、「母乳育児に関する電話相談」サービスについて



7 6、母乳外来（母乳育児と乳房ケア）について



7 7-1、貴院は「新生児介補料」を徴収していますか？

- 1) はい
- 2) いいえ



上記で「はい」と応えた方にお尋ねします。

77-2 新生児1人に対し、1日いくらを設定していますか？

- 1) 5千円未満
- 2) 5千円以上から1万円未満
- 3) 1万円以上

7 8、あなたの病棟（周産期部門、産科が属する病棟）は「夜間勤務等看護加算」の対象になっていますか？

- 1) はい
- 2) いいえ

ご協力ありがとうございました。

## II 研究成果

### 別刷り

1. 島田三恵子、杉本充弘、縣俊彦、新田紀枝、関和男、大橋一友、神谷整子、村上睦子、中根直子、戸田律子、盛山幸子：産後1ヶ月間の母子の心配事と子育て支援のニーズおよび育児環境に関する全国調査－「健やか親子21」5年後の初経産別・職業の有無による比較検討－. 小児保健研究, 65 : 752-762, 2006.

### 新聞発表

1. 朝日新聞、平成18年6月13日朝刊の第1面、報道タイトル：夫の半数出産立ち会い－産後は親頼み、全国454施設厚労省調査（平成17年度厚生科学研究成果の発表）
2. 朝日新聞、平成18年6月19日朝刊の第2面、報道タイトル：産科医過酷さ鮮明、週61時間労働・当直明け17回、厚労省調査（平成17年度厚生科学研究成果の発表）
3. 朝日新聞、平成19年6月7日朝刊の生活面、報道タイトル：出産立ち会った夫その後は、育児分担し妻なごませて（平成17年度厚生科学研究成果の発表）

### 学会発表

1. 島田三恵子、大橋一友、乾つぶら、盛山幸子、杉本充弘、村上睦子、中根直子、縣俊彦、戸田律子、神谷整子：日本の出産ケアに関する全国調査－健やか親子21快適な妊娠出産の5年後－第47回日本母性衛生学会、名古屋、2006年11月10日
2. 島田三恵子、大橋一友、早瀬麻子、新田紀枝、西村明子、杉本充弘、村上睦子、中根直子、縣俊彦、神谷整子、戸田律子：陣痛室での付き添いと立ち会い分娩に関する全国調査－健やか親子21快適な妊娠出産の5年後－. 第47回日本母性衛生学会、名古屋、2006年11月10日
3. 島田三恵子、大橋一友、乾つぶら、安藤芙佐子、杉本充弘、村上睦子、中根直子、縣俊彦、神谷整子、戸田律子：分娩施設の選択理由に関する全国調査－平成11年と平成17年との比較－. 第47回日本母性衛生学会、名古屋、2006年11月10日
4. 島田三恵子、大橋一友、盛山幸子、中嶋有佳里、杉本充弘、村上睦子、中根直子、縣俊彦、戸田律子、神谷整子：妊婦健診での医療者の対応と情報提供およびバースプランに関する全国調査－平成11年と平成17年との比較－. 第47回日本母性衛生学会、名古屋、2006年11月10日

産後1か月間の母子の心配事と子育て支援のニーズ  
および育児環境に関する全国調査

—「健やか親子21」5年後の初産別，職業の有無による比較検討—

島田三恵子<sup>1)</sup>，杉本 充弘<sup>2)</sup>，縣 俊彦<sup>3)</sup>  
新田 紀枝<sup>1)</sup>，関 和男<sup>4)</sup>，大橋 一友<sup>5)</sup>  
村上 睦子<sup>6)</sup>，中根 直子<sup>6)</sup>，神谷 整子<sup>7)</sup>  
戸田 律子<sup>8)</sup>，盛山 幸子<sup>1)</sup>

## 研 究

産後1か月間の母子の心配事と子育て支援のニーズ  
および育児環境に関する全国調査

—「健やか親子21」5年後の初産別、職業の有無による比較検討—

島田三恵子<sup>1)</sup>, 杉本 充弘<sup>2)</sup>, 縣 俊彦<sup>3)</sup>  
 新田 紀枝<sup>1)</sup>, 関 和男<sup>4)</sup>, 大橋 一友<sup>5)</sup>  
 村上 睦子<sup>6)</sup>, 中根 直子<sup>6)</sup>, 神谷 整子<sup>7)</sup>  
 戸田 律子<sup>8)</sup>, 盛山 幸子<sup>1)</sup>

## 〔論文要旨〕

産後1か月間の母子の心配事、母親が希望する子育て支援サービス、および育児環境を明らかにすることを目的として、全国47都道府県から層化無作為抽出法により、種々の出産施設合計454カ所の1か月健診に来所した母親3,852名を対象とし、自記式調査票により調査した。その結果、母親の67%が睡眠不足で疲労感、25%が乳房トラブル、15%が育児放棄感や自信喪失感を経験していた。乳児の皮膚35%、母乳哺育34%、児の不眠が24%あり、全項目が初産婦に有意に多かった。退院先は60%が実家で平成11年の同調査と変わらないが、産後の家事育児を手伝う夫が減り、親の割合が76%に増加した。妊娠出産まで仕事をしていた母親の半数が退職し、仕事を続ける母親は全体の31%で、平成11年より増加した。子ども世帯の経済支援69%、夜間診療の小児科医の情報54%、無職でも利用できる一時預かり保育37%、父親の柔軟な勤務時間を36%の母親が望んでいた。

Key words : 産後心配事, 育児支援, 育児環境, 健やか親子21, 全国調査

## I. はじめに

わが国の母子保健は世界最高水準であるが、平成17年には合計特殊出生率は1.25まで低下し、女性が安心して子どもを産み育てることのできる環境整備が緊急課題となっている。その基礎となる少子化対策として「健やか親子21」<sup>1)</sup>

が平成12年に開始し、5年が経過した。その課題の1つに、子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減があげられている。筆者らは平成11年に、母親が精神的に不安定で育児不安に陥り易い産後1か月間に遭遇する産褥・育児に関する心配事と、希望する子育て支援サービスを明らかにする全国調査を行った<sup>2)3)</sup>。

Nationwide Survey on Maternal Anxiety in One-month postpartum,  
Needs for Childrearing Supports and Environment at Five Years after  
Healthy Parents and Children 21 Program

[1857]

受付 06. 9.29

採用 06.10.17

Mieko SHIMADA, Mitsuhiro SUGIMOTO, Toshihiko AGATA, Norie NITTA, Kazuo SEKI, Kazutomo OHASHI,  
Mutsuko MURAKAMI, Naoko NAKANE, Seiko KAMIYA, Ritsuko TODA, Sachiko SEIYAMA

1) 大阪大学大学院医学系研究科(助産師) 2) 日本赤十字社医療センター(産科医)

3) 東京慈恵医科大学環境保健医学教室(研究職)

4) 横浜市立大学附属市民総合医療センター母子医療センター(新生児科医)

5) 大阪大学大学院医学系研究科(産婦人科医) 6) 日本赤十字社医療センター(助産師)

7) みづき助産院(助産師) 8) 日本出産教育協会(その他)

別刷請求先: 島田三恵子 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番7号  
Tel/Fax: 06-6879-2532

そこで、本研究では平成11年の全国調査をベースライン値として、「健やか親子」国民運動計画の5年後における、産後1か月間に遭遇する産褥・育児に関する心配事、および産後3か月までに母親が希望する子育て支援サービス、および育児環境の現状と変化について明らかにすることを目的として全国調査を行った。

## II. 対象と方法

### 1. 対象

平成11年に実施した全国調査<sup>3)4)</sup>と同様に、全国47都道府県からの層化無作為抽出法により実施した。すなわち、全国47都道府県の大学病院30カ所、一般病院246カ所、産婦人科診療所212カ所、助産院82カ所、合計570カ所を抽出し、北海道、東北、北陸、関東、甲信越、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄の11地方および医療機関4種の平成15年の分娩数<sup>5)</sup>に比例配分して、調査対象者10,000名を割付けた。平成17年9月～12月に出産した産褥1か月の母親3,852名(38.5%, 454施設)から回答が得られ、解析対象とした。

### 2. 方法

調査協力に承諾の得られた施設で、産褥1か月健診に来所した母親に調査票を配布し、任意回答した調査票を対象者が封をして郵送返信により回収した。

調査内容は、平成11年に実施した全国調査(以下、前回調査とする)<sup>3)4)</sup>をベースライン値として比較するため、前回調査の調査票を精選して数カ所の設問を加減した他は、前回と同一の設問項目を用い、対象特性、仕事の有無と勤務形態、退院先、家事育児の援助者、産後1か月の母子の問題点、相談相手、および希望する母子保健医療福祉サービスである。更に今回は、公的な母子保健サービスの空白期間である産後3か月までの間に希望する育児支援の項目を加えた。

### 3. 分析方法

初経産または仕事の有無による比較には $\chi^2$ 検定を、および前回調査との度数の比較にはMantel-Haenzel  $\chi^2$ 検定(以下MH  $\chi^2$ と略す)<sup>6)</sup>、年齢など連続変数の比較にはunpaired t-testを

## 調査票

産後1か月の母子の心配事と育児支援ニーズおよび育児環境に関する調査票	2) 社会から取り残された感じがして、孤独感やあせりを感じた。
1. あなたはお仕事をもっていますか。	3) 育児にかかり切りに忙しく、投げ出したくなることもある。
仕事をもっている(自営業を含む)。	4) 赤ちゃんの育て方に自信がなかった。
1) 産後休暇6週間を待たずに、働く予定(またはすでに働いている)。	5) お乳のトラブル(しこり・痛みなど)
2) 産後休暇中であるが、産後職場復帰する予定。	6) 会陰の痛み
3) 育児休業をとってから、職場復帰する予定。	7) 出血や悪露
仕事をもっていない。	8) 尿もれ
4) 妊娠・出産を契機に退職し、しばらく就職するつもりはない。	9) その他( )
5) 就職を希望しているが、失業中である。	イ. 赤ちゃんのこと
6) 妊娠前から専業主婦である。	10) 眠ってくれない。
7) その他	11) 泣いてばかりいる(夜泣きも含む)。
2. 退院後、どこで過ごしましたか。	12) 母乳が足りているのかどうか心配。
1) 自宅	13) ミルクをどのくらい飲ませたら良いのかわからない。
2) 自分の実家	14) おう吐
3) 夫の実家	15) 便のこと(便秘・下痢)
4) その他( )	16) 皮膚のこと(湿疹、おへそのこと、黄疸)
3. お産後のこの1か月間、毎日のように育児や家事を手伝ってくれた人は主に誰ですか。	17) 体重のこと
1) 夫・パートナー	18) 実際の育児のしかたがこれで良いのかどうか確認したい。
2) 親(実父母・義父母)	19) その他( )
3) 姉妹	ウ. 育児環境について
4) 誰もいなかった、自分でやった	20) 夫や家族の理解や協力が得られなかった。
5) その他( )	21) 相談できる場所、専門の人がなかった。
4. 退院後の1か月間、育児などのことで困ったことはありましたか。(複数回答可)	22) 仕事との両立が難しい。
ア. お母さん自身のこと	23) 保育園に預けたいが入園できるかどうかわからない。
1) 睡眠不足で身体が疲れていた。	24) その他( )
	5. 子育てをする時、以下のどのようなサービスがあれば、楽しく育児ができますか。あなたにとって、次の1)～26)までのうち、最も重要なものに5つまで、○をつけて下さい。(5つ複数回答可)



<p>ア. 産後の情報提供</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 産後、退院してから母子共に入院できる助産院リスト</li> <li>2) 電話相談や育児相談の電話番号リスト</li> <li>3) 夜も診てくれる小児科医のリスト</li> <li>4) 母子健康手帳に、電話相談の番号、助産院、小児科医の情報も載せる。</li> </ol> <p>イ. 育児相談</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5) 24時間電話できる育児相談</li> <li>6) お産をした病院・医院・助産院での育児相談</li> <li>7) 産後、必要な時に何回でも相談に応じてもらえる家庭訪問</li> <li>8) じっくり相談のついでにもらえる乳児健診</li> <li>9) 保育所、幼稚園、児童館での育児相談</li> </ol> <p>ウ. 育児サポート</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>10) 産後の赤ちゃんや母親の世話をする産褥ヘルパー</li> <li>11) 家事を手伝ってくれるヘルパーを派遣する制度</li> <li>12) 必要に応じて乳房マッサージもやってくれる家庭訪問</li> </ol> <p>エ. 保育所</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13) 働いていなくても利用できる赤ちゃんの一時預かり保育</li> <li>14) 乳児保育、延長保育、病児保育などの保育サービス</li> <li>15) 駅の近くの保育所</li> <li>16) 職場内の保育所</li> </ol> <p>オ. 育児休業、労働時間など</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>17) 育児休業を気がねなくとれる代わりに人の配置</li> <li>18) 育児休業中のある程度の給料の保証</li> <li>19) 育児休業後、もとの職場や希望する部署への配置</li> <li>20) 育児休業後の研修や職場情報の提供</li> <li>21) 夫婦でともに育児できるような父親の育児休業</li> <li>22) 育児中の親にあわせた働き方（短時間勤務、在宅勤務など）</li> <li>23) 職場に近い社宅や公営住宅への子育て世代の優先的入居制度</li> </ol> <p>カ. 行政サービス</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>24) 子どものいる家庭の優遇税制、保育料の軽減などの経済的支援</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>25) 親の就労時間を考えた乳幼児健診の時間・方法</li> <li>26) 公費負担の予防接種を受ける場所・時間を柔軟にすること</li> </ol> <p>6. 産後2か月、産後3か月の間、どのようなサービスがあれば楽しく育児ができますか。次の1)~16)までのうち、あなたにとって重要なものに○をつけて下さい。(複数回答可)</p> <p>ア. 情報提供</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 夜も診てくれる小児科医のリスト</li> <li>2) ベビーシッターを紹介してくれる所</li> <li>3) 地域の児童委員、民生委員</li> <li>4) 出産した病院からの育児などの情報提供や働きかけ（例えば、赤ちゃんとの生活や、上の子どもの対応に関する助言など）</li> </ol> <p>イ. 育児相談</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5) 24時間電話できる育児相談</li> <li>6) 母乳育児の相談と乳房手当を兼ねた母乳外来</li> <li>7) 自由に参加できる病院・医院・助産院での育児相談</li> </ol> <p>ウ. 育児サポート</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8) お産をした病院・医院・助産院からの電話訪問</li> <li>9) 産後1か月後も、必要な時に何回でも相談に応じてもらえる家庭訪問</li> <li>10) 自由に参加できる病院・医院・助産院での育児サークル</li> <li>11) 父親同士の交流ができる場</li> <li>12) インターネットによる育児相談</li> </ol> <p>エ. 保育所</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13) 働いていなくても利用できる赤ちゃんの一時預かり保育</li> <li>14) 産休または育児休業明けの母親の乳児優先の入園制度</li> </ol> <p>オ. 育児休業、労働時間など</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>15) 夫婦で育児できるような父親の育児休業</li> <li>16) 夫が育児参加できるような父親の働き方（短時間勤務、在宅勤務など）</li> </ol>
--	---

用いた。統計解析には SAS ver.9.0を使用した。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 対象特性 (表1)

出産時の平均年齢 $30.5 \pm 4.6$ 歳で、平成11年より1歳、有意に高くなった (unpaired  $t=10.8$ ,  $df=7,917$ ,  $p < 0.0001$ )。初産婦1,980名 (51.4%)、経産婦1,870名 (48.6%) で、初産・経産婦の割合は前回調査と差がなかった。妊娠週数は平均 $38.9 \pm 2.0$ 週、平均出生体重は $3,035.0 \pm 426.3$ gで、共に前回調査との差はない。

#### 2. 育児環境 (表2)

産後の退院先は実家が最も多く56.9%、次いで自宅が38.9%、夫の実家は3.5%で、退院先は平成11年と変化はなかった。

産後の家事育児の援助の主な援助者は親が最も多く76.0%、次いで夫が18.0%で、援助者が誰もいなかったのは3.2%であった。産後1か月間に約97%の褥婦が家事育児の援助を受けていた。前回調査に比べ、夫による援助が35%か

ら半減して、親による援助が60%から76%に増加し、産後の家事育児の援助者が有意に変化していた (MH  $\chi^2=50.3$ ,  $df=1$ ,  $p < 0.0001$ )。

退院後1か月間育児について相談した相手は、親が1,774名 (48.2%)、夫564名 (15.3%)、助産師が434名 (11.8%)、友人281名 (7.6%)、姉妹179名 (4.9%)、看護師、医師の順であった。特に困らなかったのは167名 (4.5%)、誰も相談者がいなかったのは28名 (0.8%) であった。産後の育児の相談者については前回調査との変化はなかった。

#### 3. 就労状況 (表1, 表2)

出産後も就労予定の母親は初産婦628名 (32.0%)、経産婦537名 (29.1%)、初経別無回答1名、合計1,166名 (30.6%) であり、出産した女性の1/3が有職であった (表1)。仕事を続けながら出産する女性が平成11年より有意に増加した (MH  $\chi^2=32.8$ ,  $df=1$ ,  $p < 0.0001$ )。このうち、産休後復帰予定の母親は7.1% (有職の23.2%)、育児休業後復帰予定は21.4% (有職の70.0%) であった。

妊娠出産を契機に退職したのは初産婦の39.3%, 経産婦の18.8%, 平均29.3%であった。妊娠出産まで有職だった2,283名のうちの48.9%が退職した。妊娠前から専業主婦であったのは初産婦の22.0%, 経産婦の47.9%, 平均34.5%であった。

前回調査に比べ、育児休業後復帰予定が6.6%, および妊娠出産を契機に退職が3.4%それぞれ増加し、専業主婦が10%減少して、母親の就労状況が有意に変化していた(MH  $\chi^2=50.3$ ,  $df=1$ ,  $p<0.0001$ )。

4. 退院後1か月間の母親の心配事(表3)

1) 産後1か月間の母親自身の心配事

全体では「睡眠不足で疲労」が最も多く、母親の2/3を占めていた。

初産婦別にみると、精神的な側面では、初産婦の24.1%が「赤ちゃんの育て方に自信がなかった(自信喪失感)」。初産婦の20.1%, 経産婦の9.2%が「育児にかかり切りで忙しく投げ出されることがあった(育児放棄感)」。初産婦の8.8%が「社会から取り残された感じが

表1 対象特性

		平成17年 (n=3,852)	平成11年 (n=4,067)	
年齢	平均(SD)	30.5±4.6歳	29.4±4.4歳	***
	range	15~46	16~46	
	初産婦	29.4歳	28.1歳	n.s.
経産回数	経産婦	31.6歳	30.7歳	
	初産婦	1,980名 (51.4%)	2,041名 (50.4%)	n.s.
	経産婦	1,870名 (48.6%)	2,010名 (49.6%)	
	無回答	2名	16名	
職業	あり	1,166名 (30.6%)	970名 (24.5%)	***
	なし	2,643名 (69.4%)	2,991名 (75.5%)	
	無回答	43名	106名	
妊娠週数	平均(SD)	38.9±2.0週	38.9±2.1週	n.s.
児体重	平均(SD)	3,035.0 ±426.3g	3,042.8 ±410.9g	n.s.
	range	526~4,840	439~4,840	

平成17年と11年との比較; \*\*\*:  $p<0.0001$ , 他は有意差なし

表2 対象の育児環境

	平成17年		平成17年		平成11年		経年比較 MH $\chi^2$ 検定		
	初産婦 (n=1,980)	経産婦 (n=1,870)	合計 (n=3,852)	合計 (n=4,067)					
<退院先>									
自宅	585	30.0%	891	48.3%	1,477	38.9%	1,580	38.9%	n.s.
自分の実家	1,299	66.4%	862	46.8%	2,162	56.9%	2,319	57.0%	
夫の実家	58	2.9%	76	4.1%	134	3.5%	142	3.5%	
その他	14	0.7%	15	0.8%	29	0.8%	25	0.6%	
無回答	24		26		50		1		
<産後の家事育児手伝い>									
夫	273	15.3%	341	21.0%	614	18.0%	1,426	35.4%	***
親	1,424	80.2%	1,163	71.4%	2,589	76.0%	2,425	60.2%	
姉妹	29	1.6%	25	1.5%	54	1.6%	42	1.0%	
その他	33	1.9%	77	4.7%	39	1.2%	42	1.0%	
誰もいない	17	1.0%	22	1.4%	110	3.2%	93	2.4%	
無回答	204		242		446		39		
<就労状況>									
産後6週以内就労	25	1.3%	54	2.9%	79	2.1%	68	1.7%	***
産休後復帰	127	6.5%	144	7.8%	271	7.1%	315	8.0%	
育児休業後復帰	476	24.3%	339	18.4%	816	21.4%	587	14.8%	
妊娠出産で退職	771	39.3%	346	18.8%	1,117	29.3%	1,027	25.9%	
求職中	70	3.6%	45	2.4%	115	3.0%	108	2.7%	
専業主婦	431	22.0%	883	47.9%	1,315	34.5%	1,760	44.5%	
その他	63	3.2%	33	1.8%	96	2.5%	96	2.4%	
無回答	17		26		43		106		

経産回数の無回答2名, \*\*\*:  $p<0.001$ , \*\*:  $p<0.01$ , \*:  $p<0.05$ , MH  $\chi^2$ 検定 (Mantel-Haenszel  $\chi^2$ 検定)

表3 退院後1か月間の母親の心配事

(複数回答, n=3,852)

	平成17年		初経産 比較 $\chi^2$ 検定	平成17年		平成11年		経年 比較 MH $\chi^2$ 検定		
	初産婦 (n=1,980)	経産婦 (n=1,870)		合計 (n=3,852)	合計 (n=4,067)					
<母親の問題>										
睡眠不足・疲労	1,430	72.2%	1,145	61.3%	***	2,576	66.9%	2,660	65.4%	
孤独感・焦燥感	173	8.8%	57	3.1%	***	230	6.0%	123	3.0%	***
育児放棄感	397	20.1%	171	9.2%	***	568	14.8%	508	12.5%	**
自信喪失	477	24.1%	32	1.7%	***	511	13.3%	510	12.5%	
乳房トラブル	613	31.0%	334	17.9%	***	947	24.6%	802	19.7%	***
会陰疼痛	419	21.2%	160	8.6%	***	579	15.0%	431	10.6%	***
出血・悪露	319	16.1%	268	14.8%		588	15.3%	560	13.8%	
尿失禁	124	6.3%	111	5.9%		235	6.1%	104	2.6%	***
その他	217	11.0%	362	19.4%	***	579	15.0%	311	7.6%	***
<児の問題>										
不眠	626	31.6%	275	14.7%	***	902	23.4%	928	22.8%	
泣き(夜泣き含む)	423	21.4%	185	9.9%	***	608	15.8%	594	14.6%	
母乳不足の心配	840	42.4%	467	25.0%	***	1,308	34.0%	1,384	34.0%	
哺乳・補充量不明	432	21.8%	94	5.0%	***	527	13.7%	547	13.4%	
嘔吐	343	17.3%	156	8.4%	***	498	12.9%	457	11.2%	*
便	299	15.1%	216	11.6%	**	514	13.4%	604	14.9%	*
皮膚	788	39.8%	538	28.8%	***	1,328	34.5%	1,422	35.0%	
体重	400	20.2%	221	11.8%	***	622	16.2%	518	12.7%	***
育児確認	489	24.7%	75	4.0%	***	566	14.7%	509	12.5%	*
その他	135	6.8%	201	10.7%	***	336	8.7%	206	5.1%	***
<育児環境の問題>										
家族の協力不足	92	4.7%	114	6.1%	*	205	5.3%	132	3.2%	
相談所・人なし	113	5.7%	34	1.8%	***	147	3.8%	114	2.8%	
仕事両立困難	96	4.9%	82	4.4%		179	4.7%	114	2.8%	
保育園入園困難	180	9.1%	112	6.0%	***	293	7.6%	177	4.4%	
その他	119	6.0%	197	10.6%	***	316	8.2%	121	3.0%	***

経産回数無回答2名, \*\*\*: p<0.001, \*\*: p<0.01, \*: p<0.05, MH  $\chi^2$ 検定 (Mantel-Haenszel  $\chi^2$ 検定)

して、孤独や焦りを感じていた(孤独感・焦燥感)」。これらの項目のいずれも、初産婦の方が経産婦より有意に多かった。

身体的側面では、初産婦の72.2%、経産婦の61.3%が「睡眠不足で疲労」を訴え、次いで「乳房トラブル」が初産婦の31.0%、経産婦の17.9%、「会陰の痛み」が初産婦の21.2%、経産婦の8.6%であった。これらの項目のいずれも初産婦に有意に多かった。

職業の有無別では、「孤独感・焦燥感」は有職の母親(95名, 8.2%)の方が無職の母親(132名, 5.0%)より有意に多かった( $\chi^2=14.3$ ,  $df=1$ ,  $p<0.001$ )。それ以外の母親の項目については就業の有無による差はなかった。

前回調査に比べ「乳房トラブル」、「会陰の痛み」、「孤独感・焦燥感」、「尿失禁」が有意に増

加していた(表3)。

## 2) 生後1か月間の児の心配事

全体では「皮膚(湿疹, 臍, 黄疸など)」34.5%、「母乳不足の心配」34.0%、「眠ってくれない(不眠)」が23.4%で多かった。

初経産別にみると、初産婦では「母乳不足の心配」が42.4%と最も多かったが、経産婦では25.0%であった。次いで「皮膚」の心配が初産婦では39.8%、経産婦では最も多く28.8%であった。「不眠」、「体重のこと」、「泣いてばかりいる(夜泣き含む)(泣き)」、「育児の仕方がこれでよいのか確認したい(育児確認)」、「哺乳量や補充量がわからない(哺乳・補充量不明)」、「便秘・下痢など便のこと(便)」、「嘔吐」の順に多く、児に関するすべての心配事について初産婦が有意に多かった。

児の問題に関しては職業の有無による有意な差は認められなかった。前回調査と比べ「体重」の心配事が増加したが、他の項目は前回とほぼ同傾向であった(表3)。

3) 育児環境の心配事

母親自身や児の問題に比べて、育児環境の問題をあげた母親は少なかった。5.3%の母親は「夫や家族の理解や協力が得られなかった」、「その他の育児環境の問題」以外の項目は前回調査とほぼ同傾向であった。「相談できる場所、専門の人がいなかった」のが初産婦では5.7%で、経産婦より多かった。有職者の16.5%が「保育

園に預けたいが入園できるかどうかわからない」、12.5%が「仕事との両立が難しい」と心配していた。

4. 希望する母子支援サービス(表4)

全体では「子どものいる家庭の優遇税制、保育料軽減などの経済支援(子ども世帯の経済支援)」が69.0%、「夜も診てくれる小児科医リスト(夜間小児科リスト)」が54.2%、「働いていなくても利用できる一時預かり保育(一時預かり保育)」が37.0%、「公費負担の予防接種を受ける場所・時間を柔軟にすること(柔軟な予防

表4 希望する子育て支援

(5つまで複数回答, n=3,852)

	平成17年		初産婦 比較 χ <sup>2</sup> 検定	平成17年		平成11年		経年 比較 MHχ <sup>2</sup> 検定
	初産婦 (n=1,980)	経産婦 (n=1,870)		合計 (n=3,852)	合計 (n=4,067)			
助産院リスト	91 4.6%	125 6.7%	**	216 5.6%	253 6.2%			
電話・育児相談リスト	230 11.6%	132 7.1%	***	363 9.4%	599 14.7%		***	
夜間小児科リスト	1,097 55.4%	990 53.0%		2,088 54.2%	2,210 54.3%			
情報掲載母子手帳	371 18.8%	272 14.6%	***	642 16.7%	668 16.4%			
24時間電話相談	541 27.3%	325 17.4%	***	867 22.5%	1,145 28.2%		***	
出産施設の育児相談	443 22.4%	296 15.8%	***	739 19.2%	823 20.2%			
必要時の家庭訪問	386 19.5%	234 12.5%	***	621 16.1%	641 15.8%			
乳健での育児相談	514 26.0%	317 17.0%	***	832 21.6%	974 23.9%		**	
保育園等の育児相談	82 4.1%	80 4.3%		162 4.2%	234 5.8%		**	
産褥ヘルパー	244 12.3%	300 16.1%	***	544 14.1%	543 13.4%			
家事ヘルパー制度	150 7.6%	322 17.3%	***	472 12.3%	457 11.2%			
乳房マッサージ家庭訪問	473 23.9%	379 20.3%	**	852 22.1%	782 19.2%		***	
一時預かり保育	662 33.4%	761 40.7%	***	1,424 37.0%	1,575 38.7%			
乳児・延長・病児保育	318 16.0%	334 17.9%		653 17.0%	610 15.0%		*	
駅近くの保育所	82 4.1%	36 1.9%	***	118 3.1%	137 3.4%			
職場内の保育所	336 17.0%	225 12.0%	***	561 14.6%	436 10.7%		***	
育休中の人員配置	184 9.3%	165 8.8%		348 9.0%	306 7.5%		*	
育休中の給料保証	323 16.3%	277 14.8%		600 15.6%	474 11.7%		***	
希望職場への復帰	107 5.4%	114 6.1%		221 5.7%	175 4.3%		*	
育休後の研修など	46 2.3%	43 2.3%		89 2.3%	78 1.9%			
父親の育休	412 20.8%	413 22.1%		825 21.4%	782 19.2%		*	
自由な勤務形態	392 19.8%	399 21.4%		790 20.5%	586 14.4%		***	
職場近の優先入居	107 5.4%	83 4.4%		190 4.9%	169 4.2%			
子ども世帯の経済支援	1,279 64.6%	1,378 73.7%	***	2,657 69.0%	2,149 52.8%		***	
柔軟な乳健実施法	250 12.6%	233 12.5%		483 12.6%	421 10.4%		**	
柔軟な予防接種	453 22.9%	442 23.7%		896 23.3%	1,049 25.8%		**	

経産回数無回答2名, \*\*\*: p<0.001, \*\*: p<0.01, \*: p<0.05, MHχ<sup>2</sup>検定 (Mantel-Haenzel χ<sup>2</sup>検定)